

添 付 資 料

【愛媛県】こどもの生活に関する調査結果（概要）

こどもの生活に関する調査結果の概要

令和7（2025）年3月
愛媛県

I 調査の概要

【調査の目的】

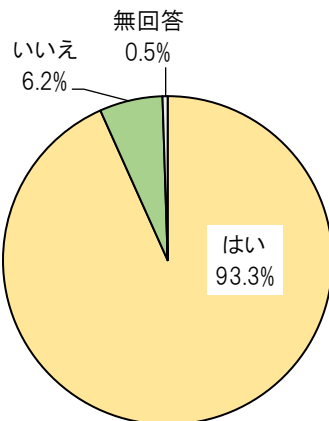
本調査は、「愛媛県子ども計画（仮称）」の策定にあたり、「子ども」や「子育て当事者等」の意識や実態を把握し、施策を検討する上での基礎資料とすることを目的として実施した。

区 分	小学2年生	小学5年生	中学2年生	高校2年生	保護者	若者
調査名称	愛媛県 小学生の生活 に関するアン ケート調査	愛媛県 小学生の生活 に関するアン ケート調査	愛媛県 中学生の生活 に関するアン ケート調査	愛媛県 高校生の生活 に関するアン ケート調査	愛媛県 こどもの生活 に関する調査	愛媛県 少子化に 関する意識 調査
調査対象	小学2年生	小学5年生	中学2年生	高校2年生	3歳児、 小学2年生、 小学5年生、 中学2年生、 高校2年生の 保護者	20歳から39 歳までの県民 （We bモニ ター登録者）
調査方法	学校を通じた配布、インターネットによる回答				3歳児は、3 歳児健診受診 時又は個別に 調 査 票 を 配 布、小学生以 上は、学校を 通じた配布、 インターネット による回答	インターネット による調査
調査時期	令和6（2024）年10～12月					令和6 （2024）年 11月
有効回答数	7,108件	8,160件	7,682件	5,823件	8,400件	150件

Ⅱ 調査結果（小学2年生）抜粋

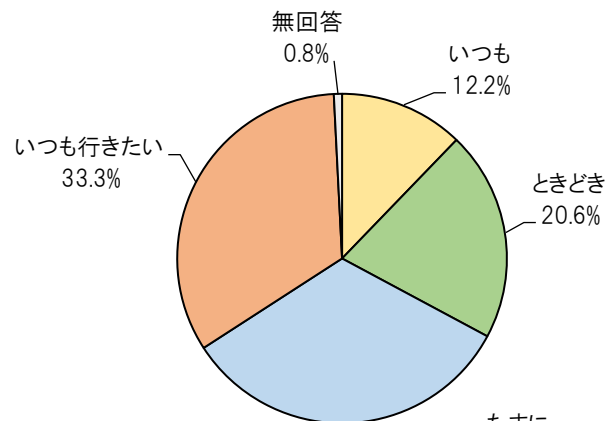
- 小学2年生の大半が「学校が楽しい」と回答しているが、1割程度がいつも「学校に行きたくない」と感じている。

1 学校は楽しいですか。



小学2年生(N=7108)

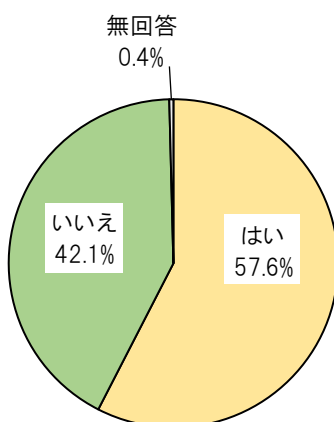
2 「学校に行きたくない」と思うことはありますか。



小学2年生(N=7108)

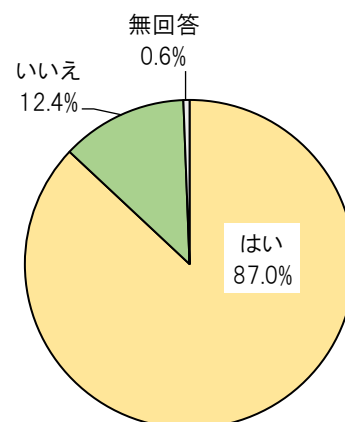
- 約6割がどうしたらいいかわからなくて「困ることがある」と回答しているが、約9割が相談できる人が「いる」と回答している。
- 相談できる人が「いない」は1割程度となっている。

3 いろいろしたり、どうしたらいいかわからなくなったりして、困ることがありますか。



小学2年生(N=7108)

4 あなたが、悲しいときや困ったときに、相談できる人はいますか。

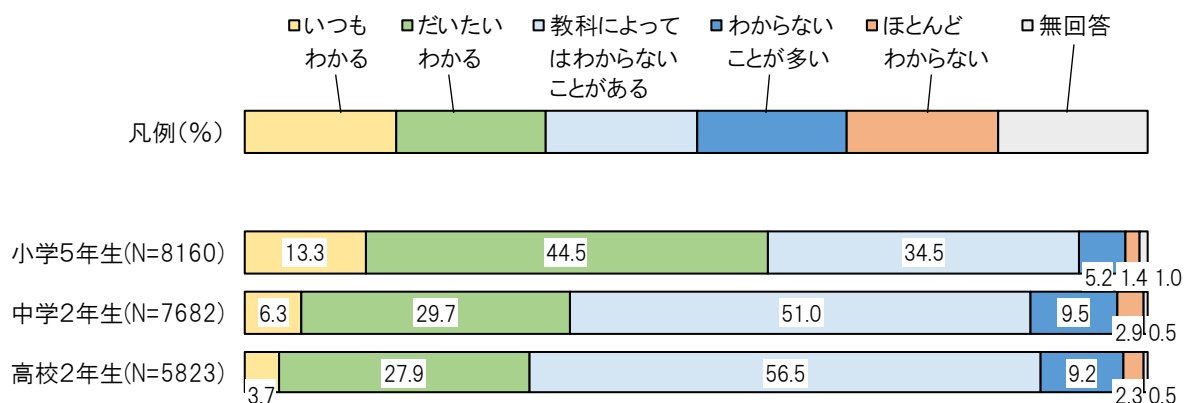


小学2年生(N=7108)

Ⅲ 調査結果（小学5年生・中学2年生・高校2年生）抜粋

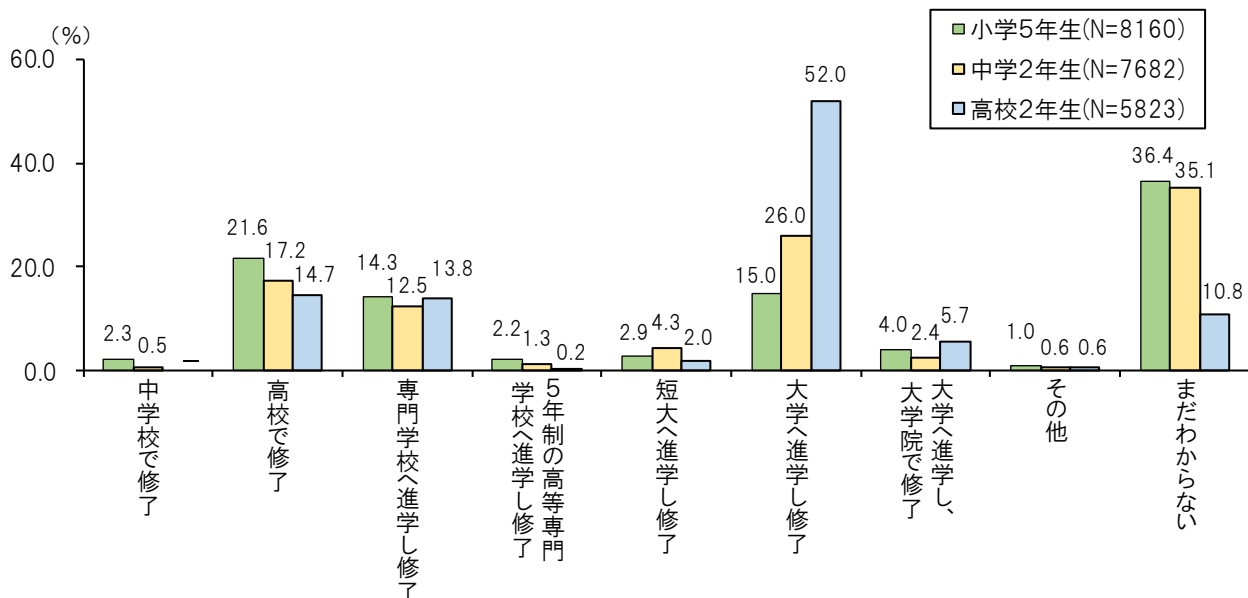
1 あなたは、学校の授業がわからないことがありますか。

- 小学5年生では「いつもわかる」「だいたいわかる」の合計が、約6割となっている。
- 中学2年生や高校2年生では、約半数が「教科によってはわからないことがある」、1割程度が「わからないことが多い」と回答している。



2 あなたは、いつまで学校に通おうと考えていますか。

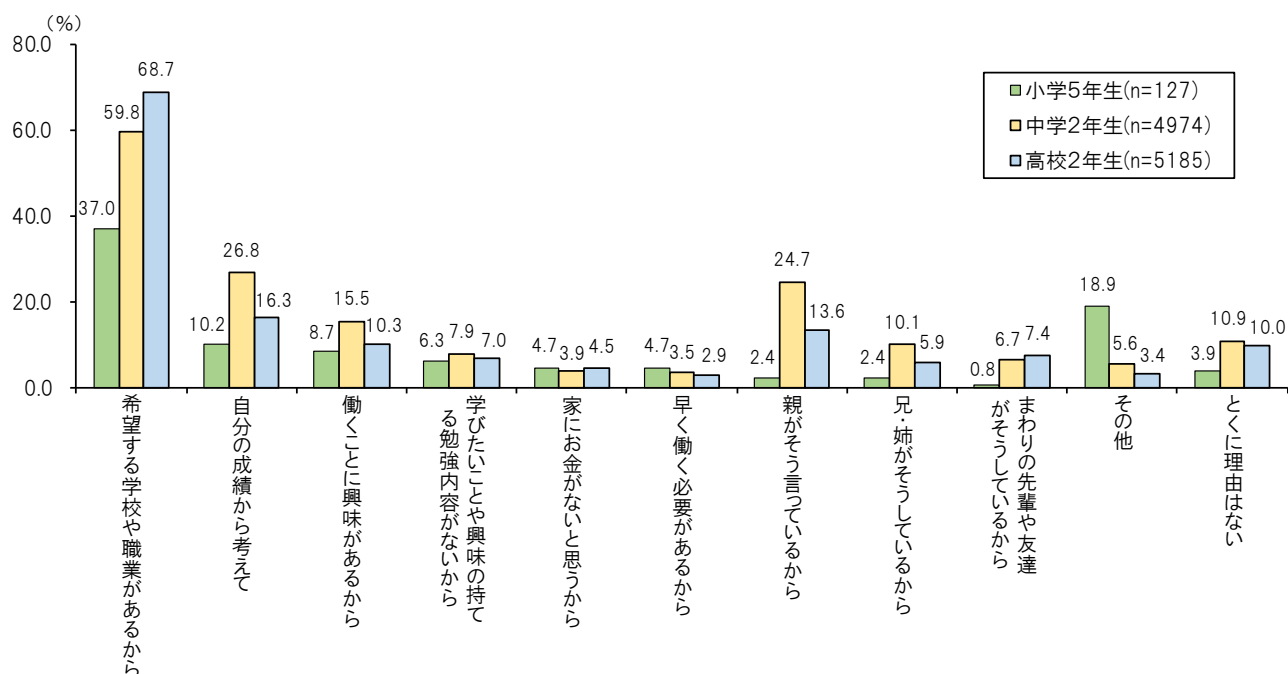
- 高校2年生の過半数が「大学へ進学し修了」と回答しており、小学5年生や中学2年生で「まだわからない」が3割以上となっている。



注：高校2年生には「中学校で修了」の選択肢はない。

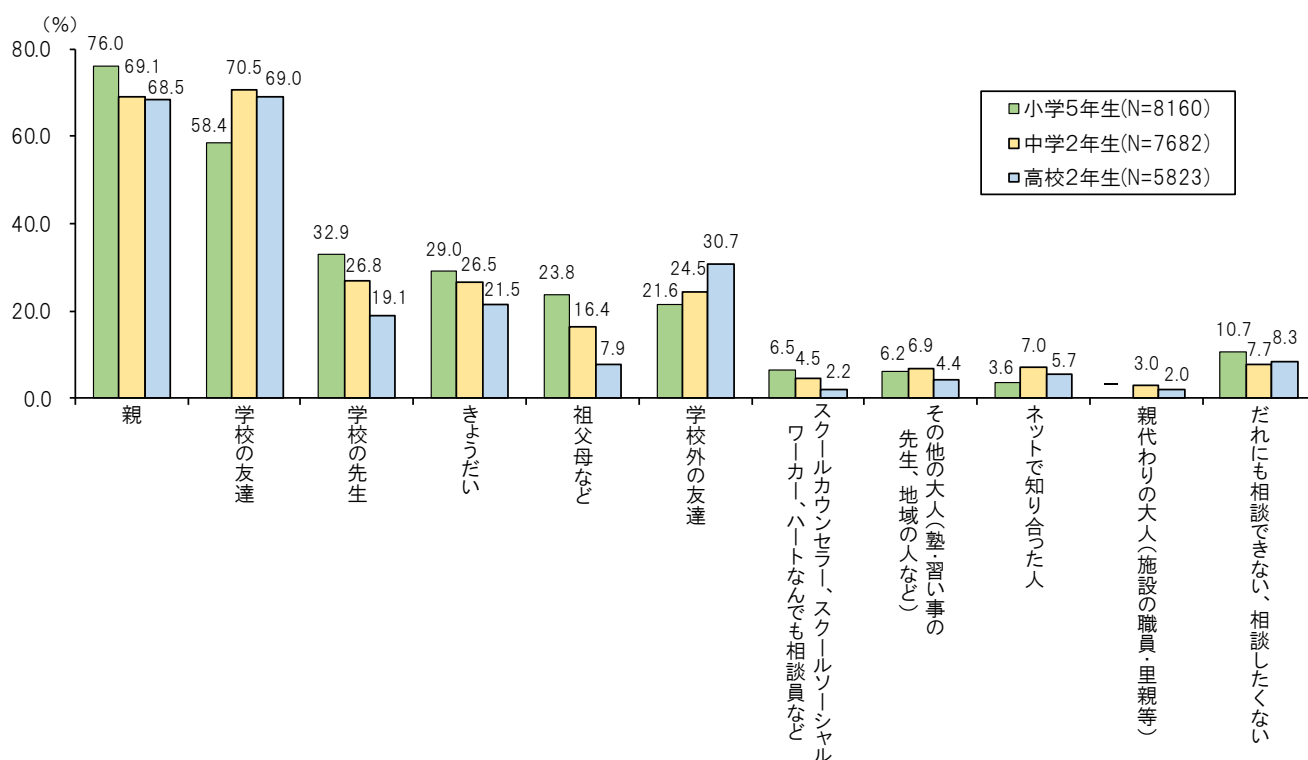
3 進学先を選んだ理由を全て教えてください。

- 中学2年生や高校2年生で「希望する学校や職業があるから」の割合が最も高く、中学2年生で「自分の成績から考えて」「親がそう言っているから」が高くなっている。



4 あなたに困っていることや悩みごとがあるとき、あなたが相談できると思う人はだれですか。

- 「親」「学校の友達」の割合が高く、「相談できない、しない」は1割程度となっている。
- 学年が低くなるほど「学校の先生」「きょうだい」「祖父母など」の割合が高く、学年が上がるほど「学校外の友達」の割合が高くなっている。

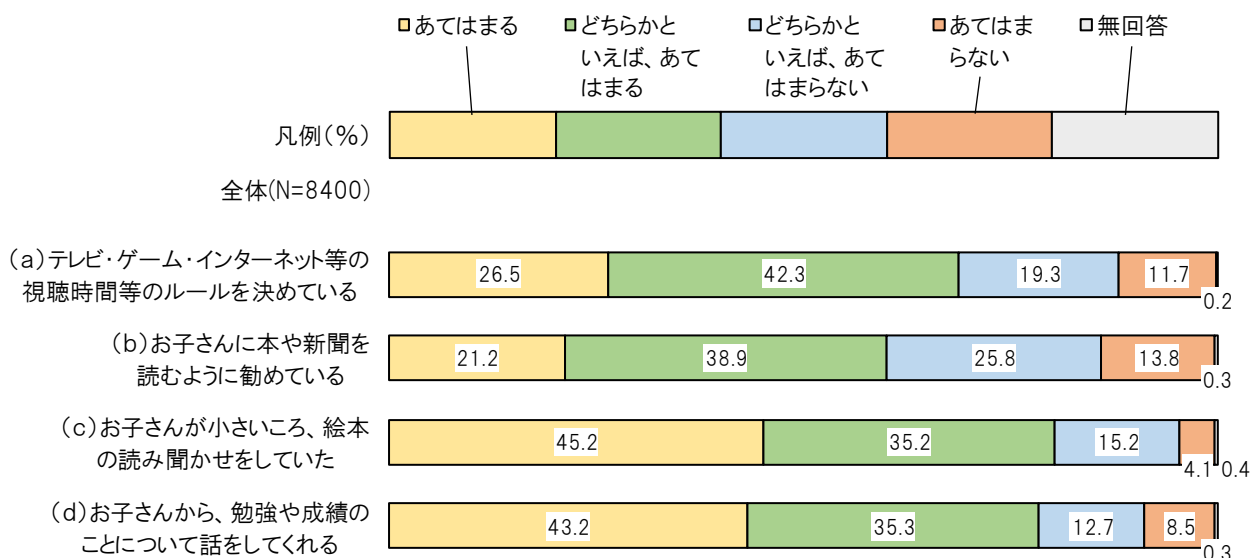


注：小学5年生には「親代わりの大人（施設の職員・里親等）」の選択肢はない。

IV 調査結果（保護者）抜粋

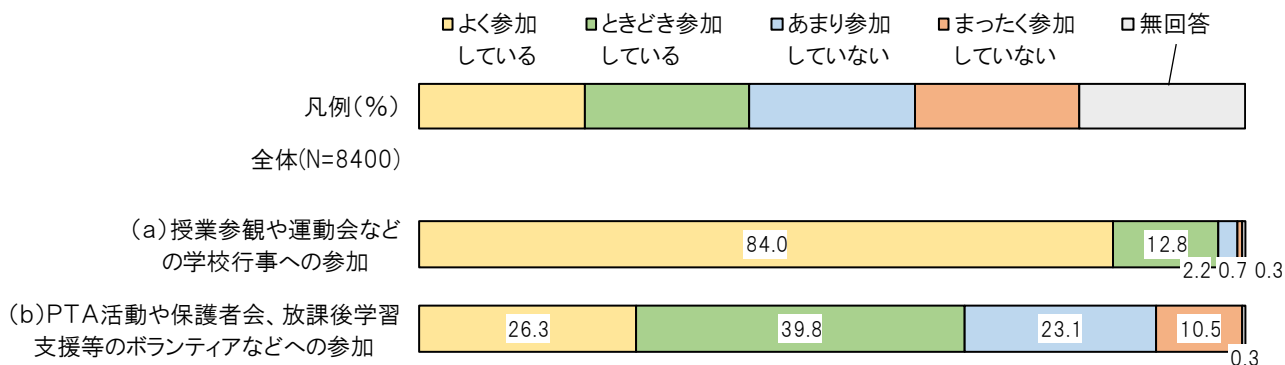
1 あなたとお子さんの関わり方について、次のようなことにどれくらい当てはまりますか。

- 約7割が「テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルール」を決めている。
- 「本や新聞を読むように勧めている」は6割となっている。
- 約8割が「絵本の読み聞かせ」をしており、「勉強や成績の話をしてくれる」と回答している。



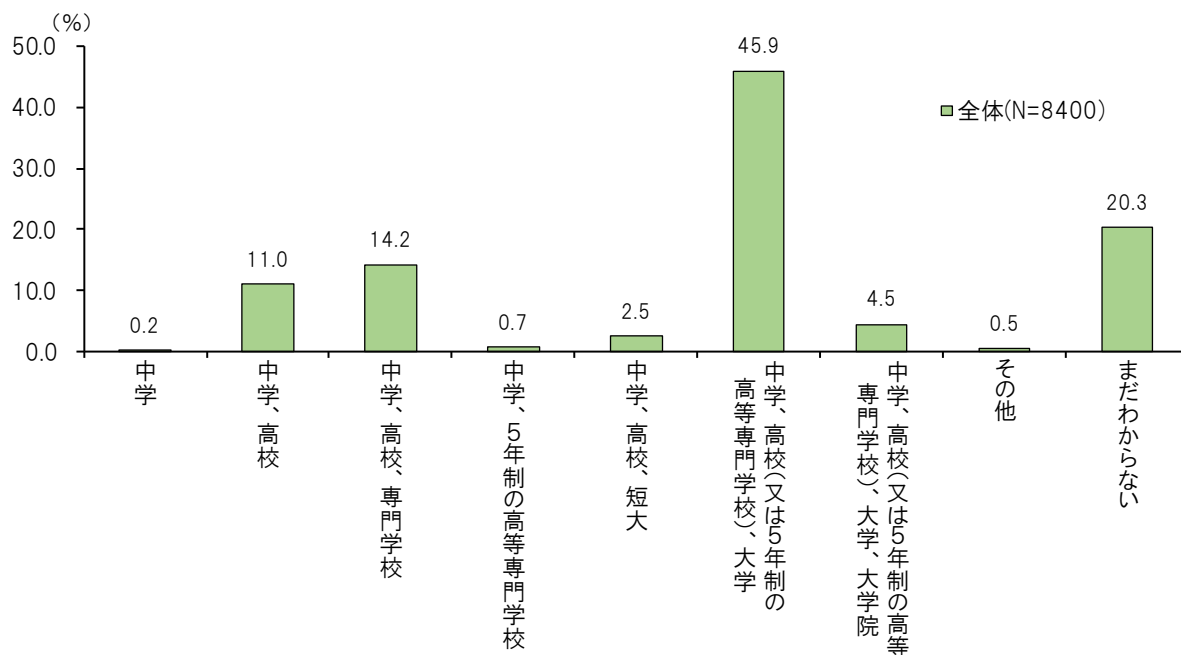
2 あなたは、次のようなことをどの程度していますか。

- 大半の保護者が「授業参観や運動会などの学校行事」に参加している。
- 6割以上が「PTA活動や保護者会、放課後学習支援等のボランティアなど」に参加している。



3 お子さんは将来、現実的に見てどの進路を選ぶと思いますか。

- 「中学、高校（又は5年制の高等専門学校）、大学」が4割以上と最も高く、次いで「まだわからない」が約2割、「中学、高校」「中学、高校、専門学校」がそれぞれ1割程度となっている。
- 世帯年収が100万円未満の層で「中学、高校」の割合が高くなっている。

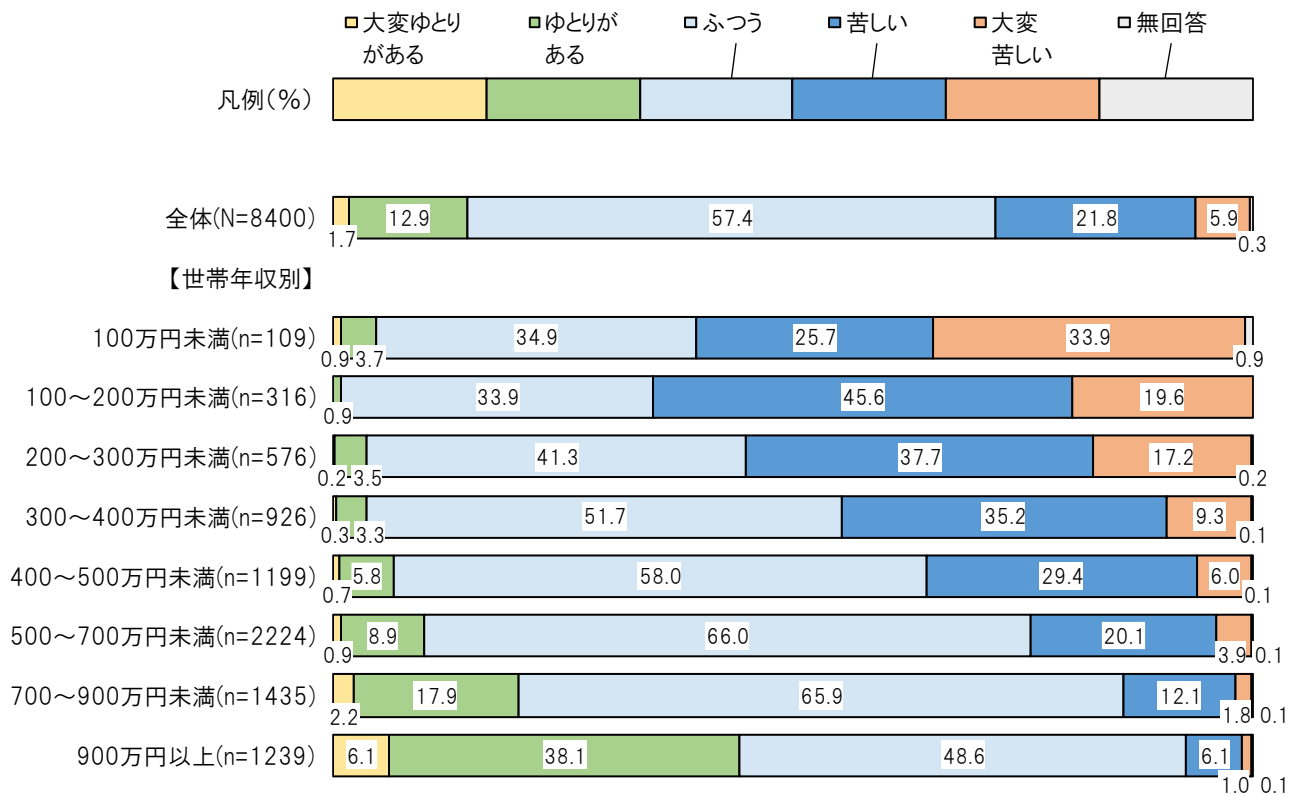


単位 (%)	中学	中学、高校	中学、高校、専門学校	中学、5年制の高等専門学校	中学、高校、短大	中学、高校（又は5年制の高等専門学校）、大学	中学、高校（又は5年制の高等専門学校）、大学、大学院	その他	まだわからない
全体(N=8400)	0.2	11.0	14.2	0.7	2.5	45.9	4.5	0.5	20.3
【世帯年収別】									
100万円未満(n=109)	1.8	23.9	15.6	0.9	4.6	19.3	2.8	2.8	28.4
100～200万円未満(n=316)	0.6	20.9	20.3	0.6	3.5	23.4	2.2	1.9	26.3
200～300万円未満(n=576)	0.5	21.9	19.4	0.3	3.0	27.3	3.5	0.5	23.4
300～400万円未満(n=926)	0.5	15.7	18.4	1.1	4.1	33.3	1.9	0.9	24.1
400～500万円未満(n=1199)	0.1	13.9	15.3	0.6	2.6	40.0	4.2	0.3	22.9
500～700万円未満(n=2224)	0.2	10.1	16.0	0.8	2.2	45.9	3.7	0.4	20.7
700～900万円未満(n=1435)	0.1	6.1	11.6	0.4	2.2	56.7	5.6	0.3	16.7
900万円以上(n=1239)	0.1	3.5	7.0	0.6	1.5	67.1	8.6	0.4	11.2

注：表中の「網掛け」は、各クロス集計（世帯年収別など）において最も高い割合を示している。
但し、回答割合が10%未満の項目及び「その他」については網掛けしていない。

4 あなたは、現在の暮らしの状況をどのように感じていますか。

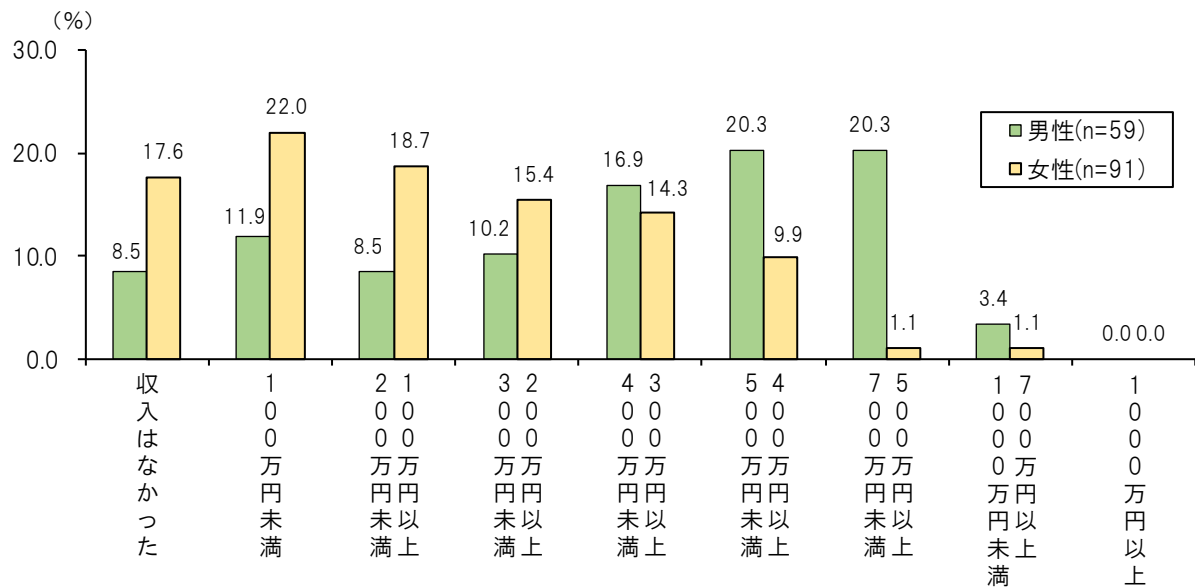
- 約3割が、現在の暮らしが「苦しい（「大変苦しい」を含む）」と回答している。
- 世帯年収が100万円未満の層で「大変苦しい」が3割以上を占めている。



V 調査結果（若者）抜粋

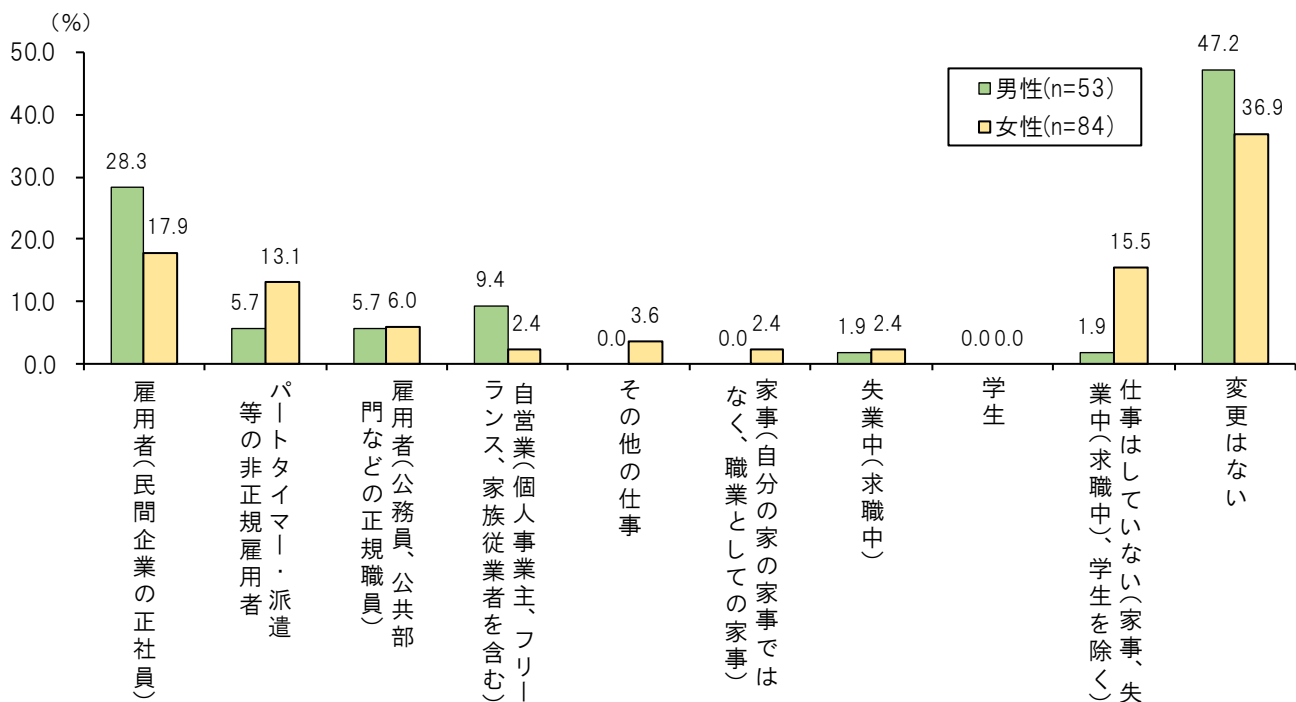
1 あなたご自身の税込みの収入は、年収（前年）でどのくらいですか。

- 男性は女性に比べ 400 万円以上の割合が高く、女性は 200 万円未満の割合が高くなっている。



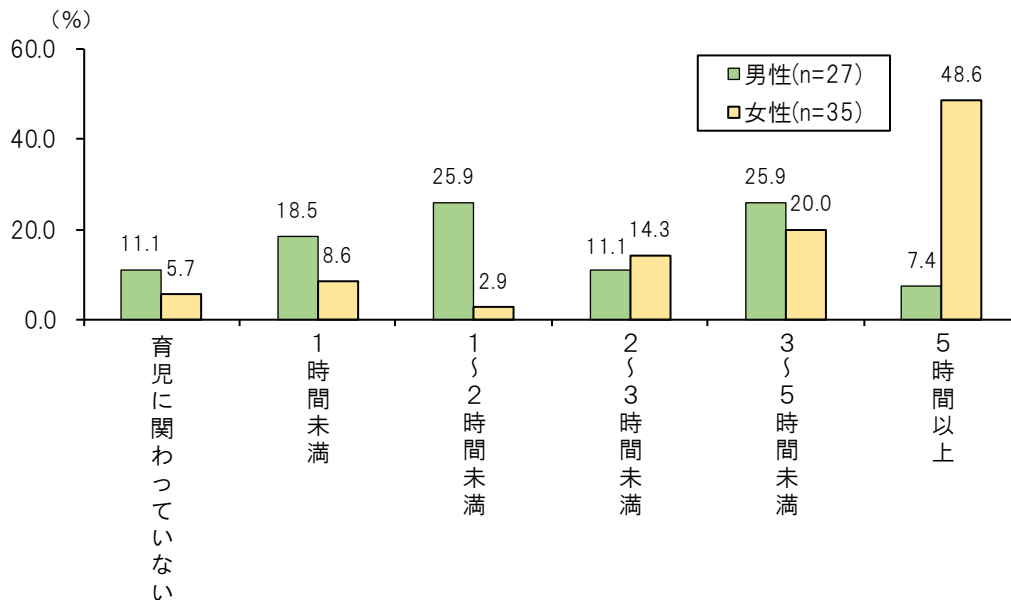
2 あなたの現在（普段）のお仕事は、学校を卒業して初めて就いたお仕事から変更がありますか。

- 男性は女性に比べて「雇用者（民間企業の正社員）」「変更はない」などの割合が高い。
- 女性は「パートタイマー・派遣等の非正規雇用者」「仕事はしていない」の割合が男性を上回っている。



3 あなたは平日にどのくらいの時間、育児をしていますか。

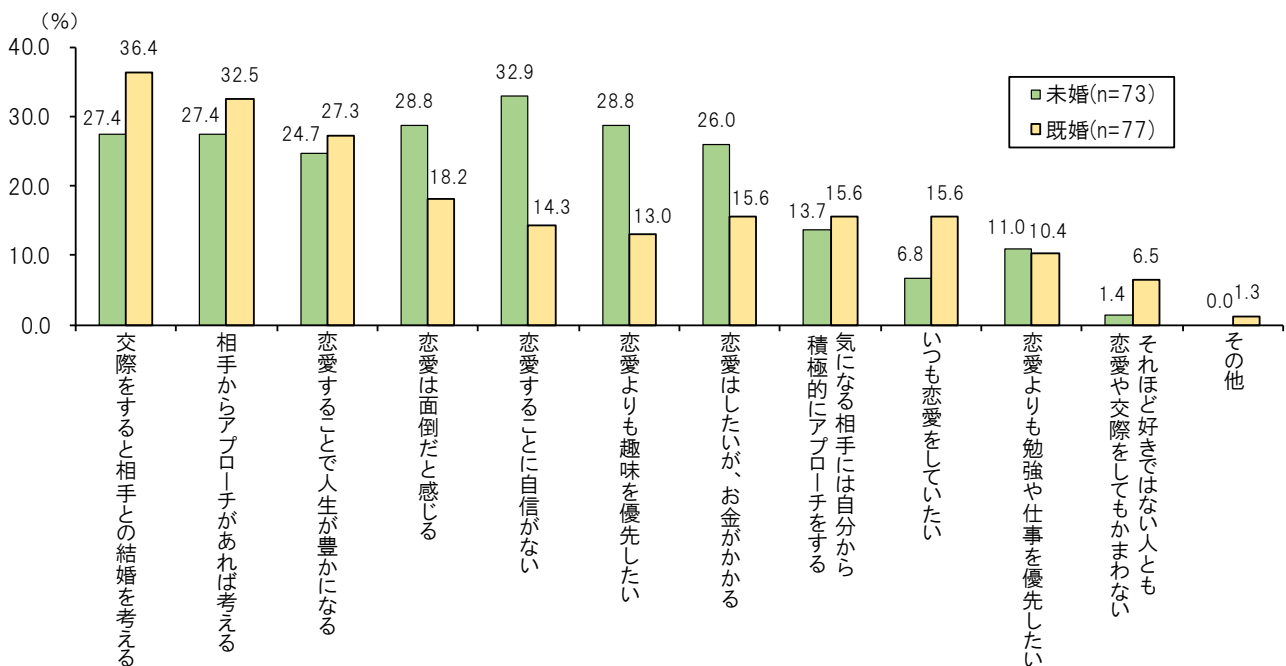
- 男性は女性に比べて「育児に関わっていない」「1時間未満」「1～2時間未満」の割合が高くなっている。
- 女性の約半数が「5時間以上」と回答している。



注：子供がいる人を母数としている。

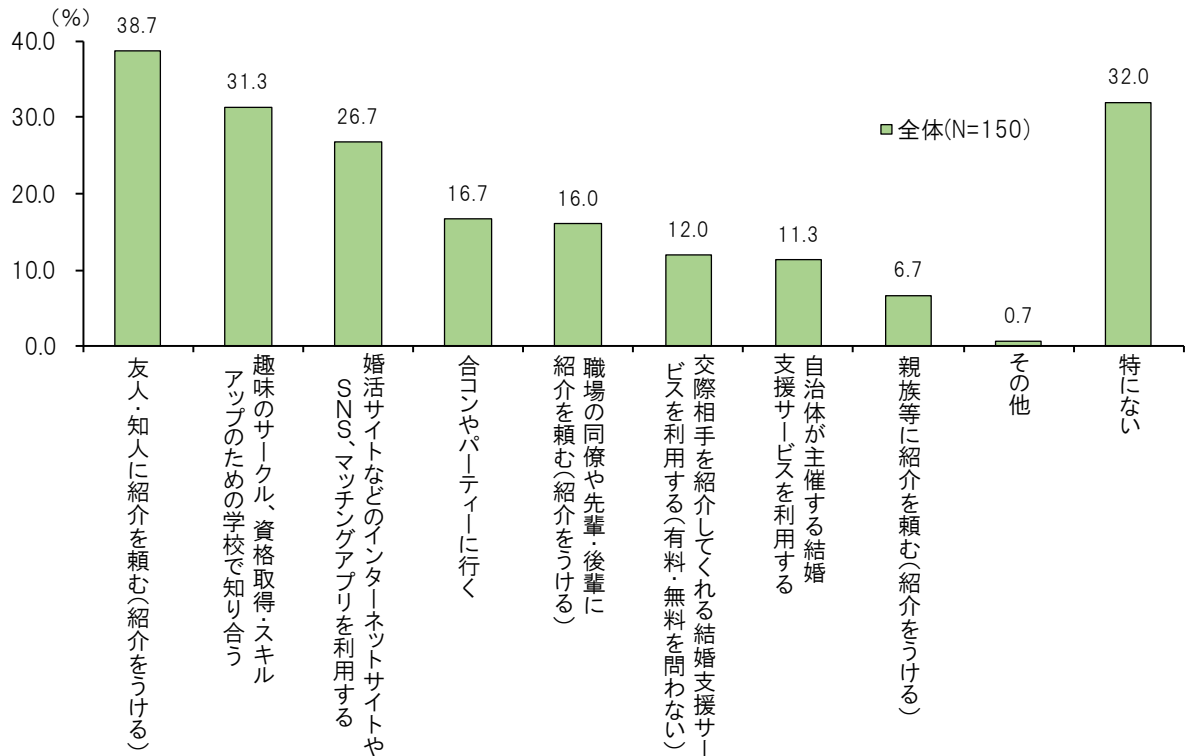
4 恋愛に関するあなたの考えについて、あてはまるものを全てお選びください。

- 未既婚別でみると、未婚の場合は「恋愛は面倒だと感じる」「恋愛することに自信がない」「恋愛よりも趣味を優先したい」「恋愛はしたいが、お金がかかる」が既婚を大きく上回っている。



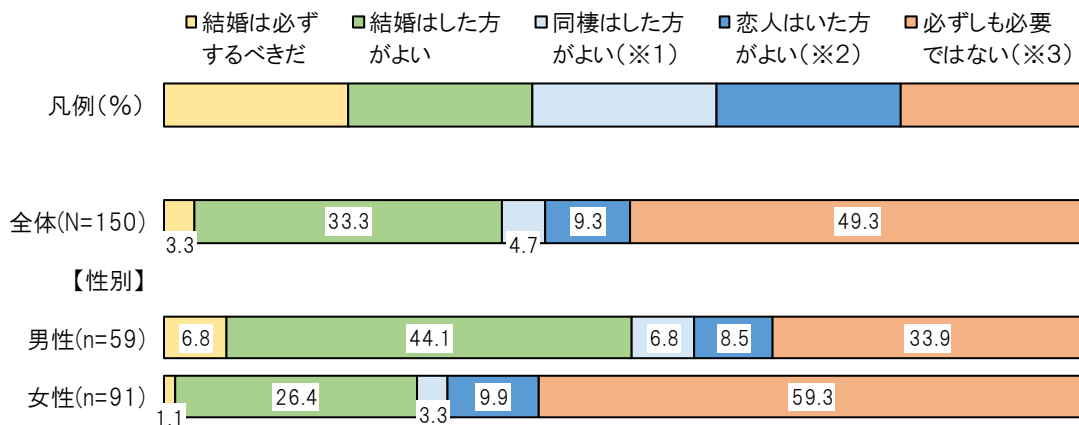
5 交際相手との出会いを求めるとしたら、どんな機会があるとよいですか。

- 出会いについては「友人・知人に紹介を頼む」が約4割と最も高く、次いで「趣味のサークル、資格取得・スキルアップのための学校で知り合う」「婚活サイトなどのインターネットサイトやSNS、マッチングアプリを利用する」の順となっている。



6 人生における結婚や同棲の必要性に対する以下のような考え方のうち、あなたの意見にもっとも近いものを1つだけ選んでください。

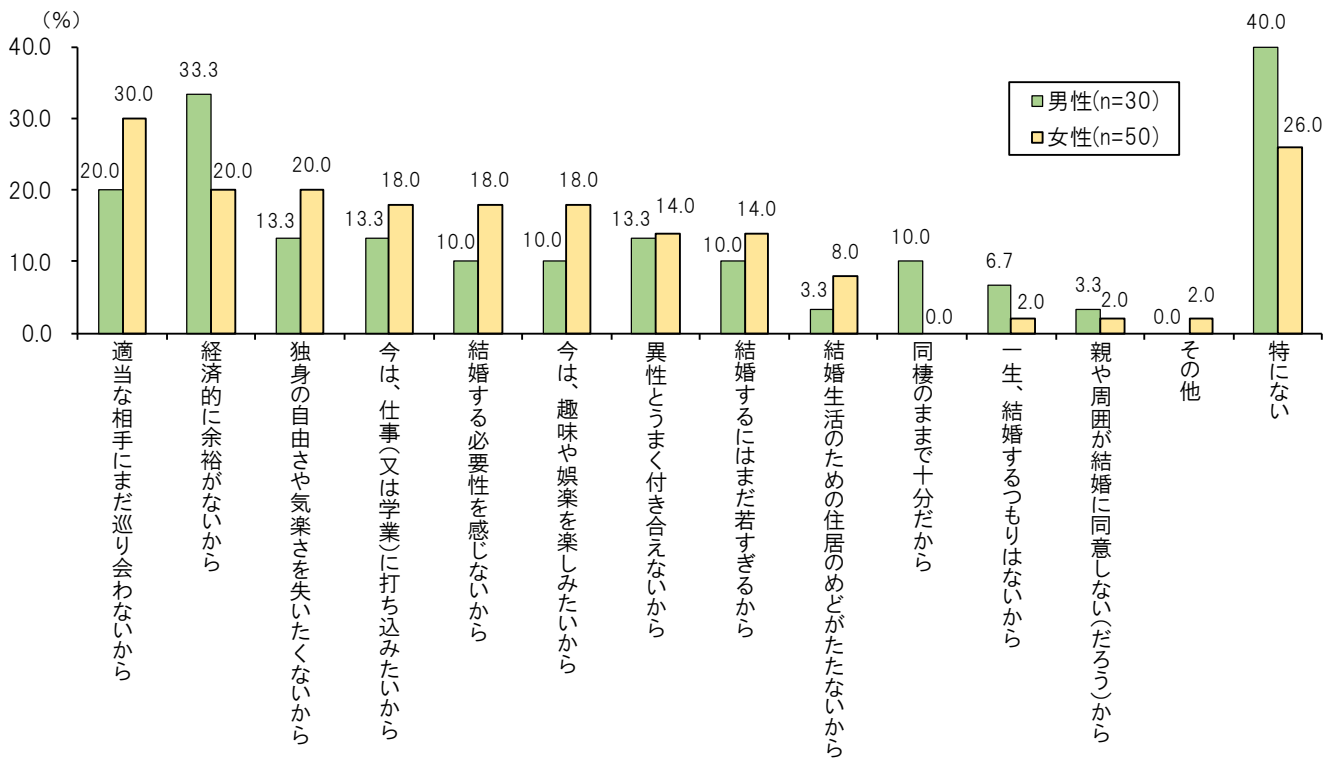
- 男性は「結婚はした方がよい」が4割以上と、女性に比べ高くなっている。
- 女性の約6割が「結婚・同棲・恋人はいずれも、必ずしも必要ではない」と回答しており、男性を大きく上回っている。



※1：結婚はしなくてもよいが、同棲はした方がよい
 ※2：結婚・同棲はしなくてもよいが、恋人はいた方がよい
 ※3：結婚・同棲・恋人はいずれも、必ずしも必要ではない

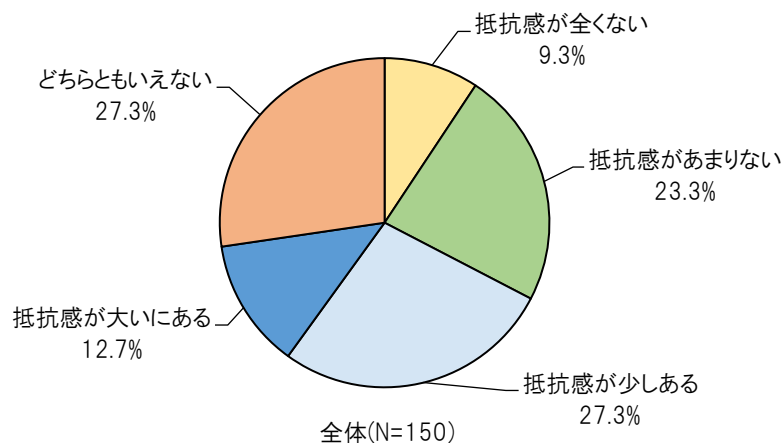
7 現在結婚していない理由を、次の中から選ぶとすればどれですか。

- 男性は「経済的に余裕がないから」が女性を大きく上回っている。
- 女性は男性に比べて「適当な相手にまだ巡り会わないから」「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」「結婚する必要性を感じないから」「今は、趣味や娯楽を楽しみたいから」などの割合が高くなっている。



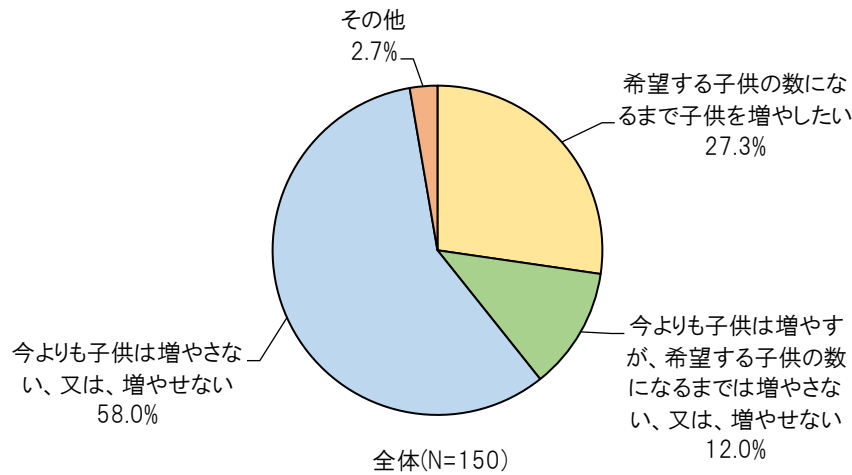
8 結婚相手・パートナーを見つけるために、自治体がマッチングシステムを活用した支援を行うことについて、どのように感じますか。

- 自治体がマッチングシステムを活用した支援を行うことについては、約3割が「抵抗感がない」、4割が「抵抗感がある」と回答している。



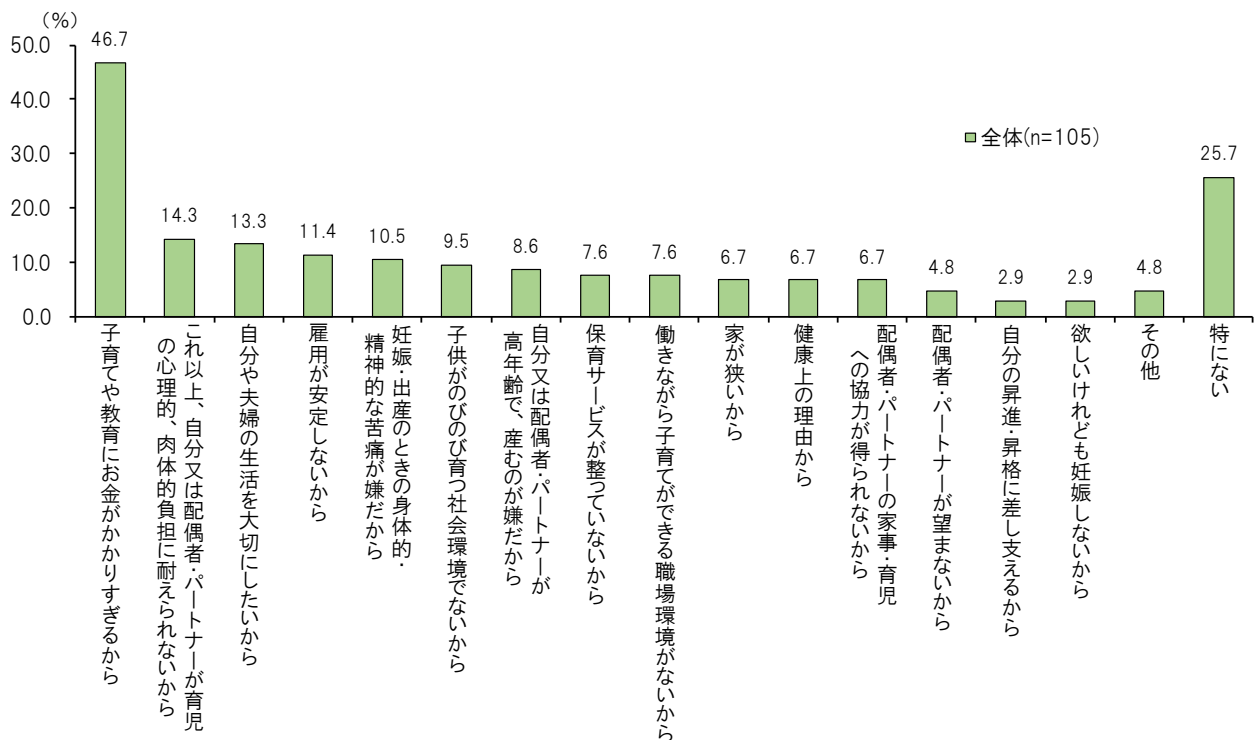
9 あなたは、今よりも、子供を増やしたいと思いますか。

- 「希望する子供の数になるまで子供を増やしたい」は約3割となっており、約6割は「今よりも子供は増やさない、又は、増やせない」と回答している。



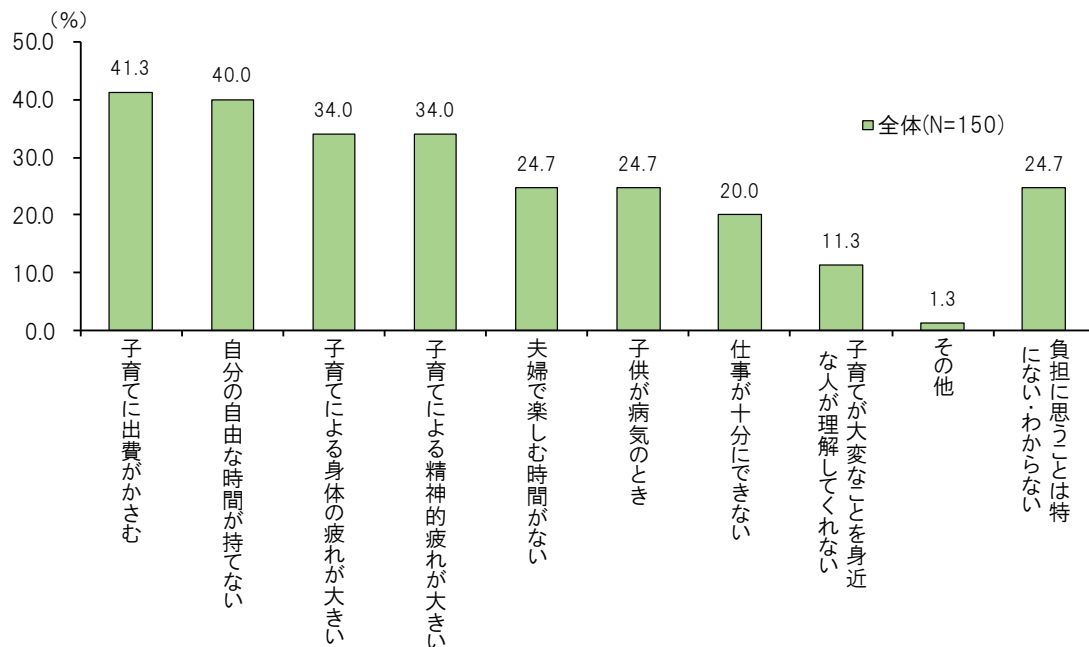
10 希望する数まで子供を増やさない、又は、増やせない理由は何ですか。

- 子供を増やさない理由については、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が4割以上と最も高く、次いで「これ以上、自分又は配偶者・パートナーが育児の心理的、肉体的負担に耐えられないから」「自分や夫婦の生活を大切にしたいから」が続いている。



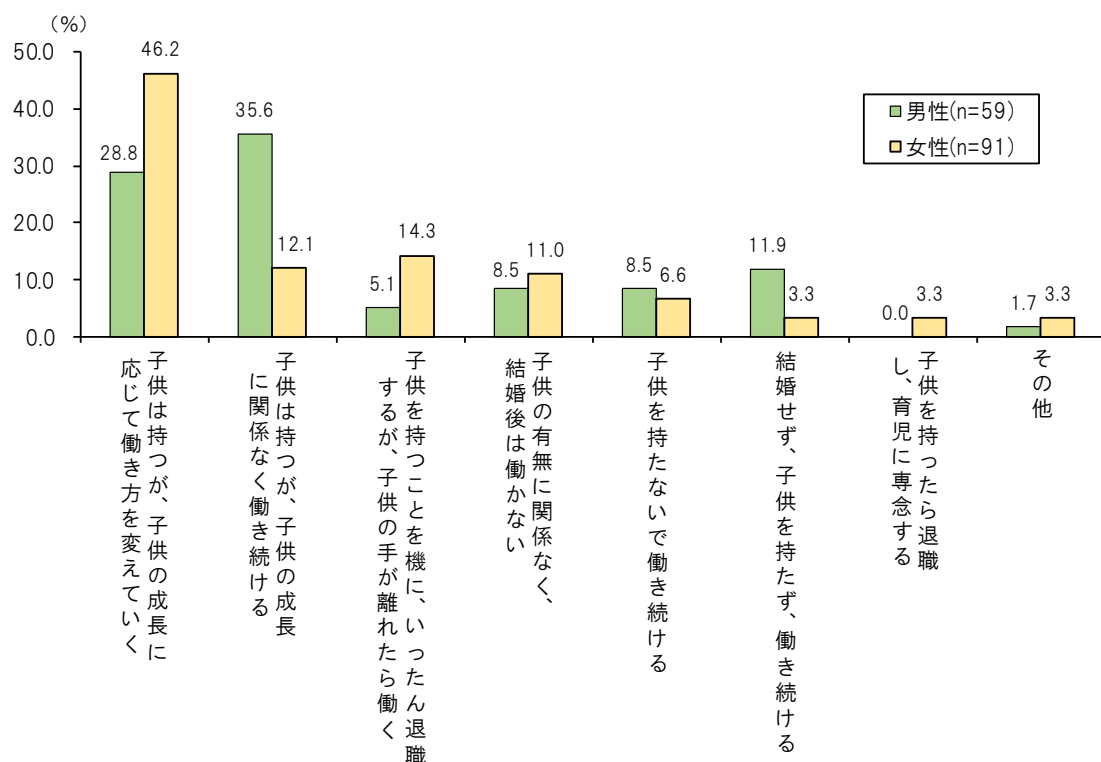
11 あなたが、子育てをしていて、自分にとって負担に思うことはどんなことですか。
(お子さんがいない方は、仮にご自分が子育てをする場合を想定して選んでください。)

- 子育てに対して負担に感じることは、「子育てに出費がかさむ」「自分の自由な時間が持てない」「子育てによる身体の疲れが大きい」「子育てによる精神的疲れが大きい」の順となっている。



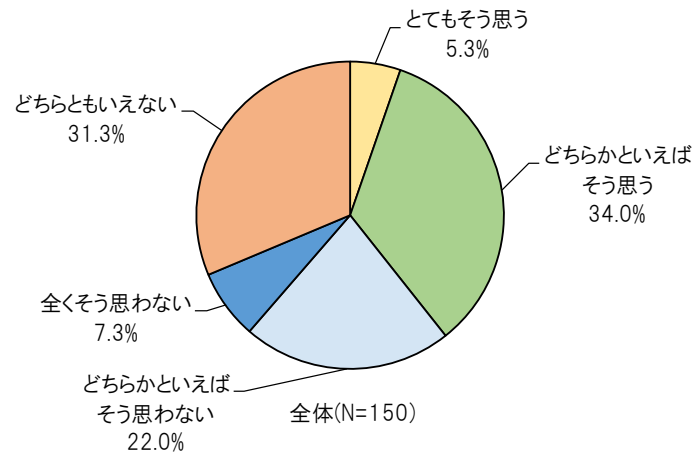
12 育児と仕事との関係で、あなたの理想の生き方は次のどれですか。

- 女性の4割以上が「子供は持つが、子供の成長に応じて働き方を変えていく」と回答しており、「子供の成長に関係なく働き続ける」「いったん退職するが、子供の手が離れたら働く」はそれぞれ1割程度となっている。



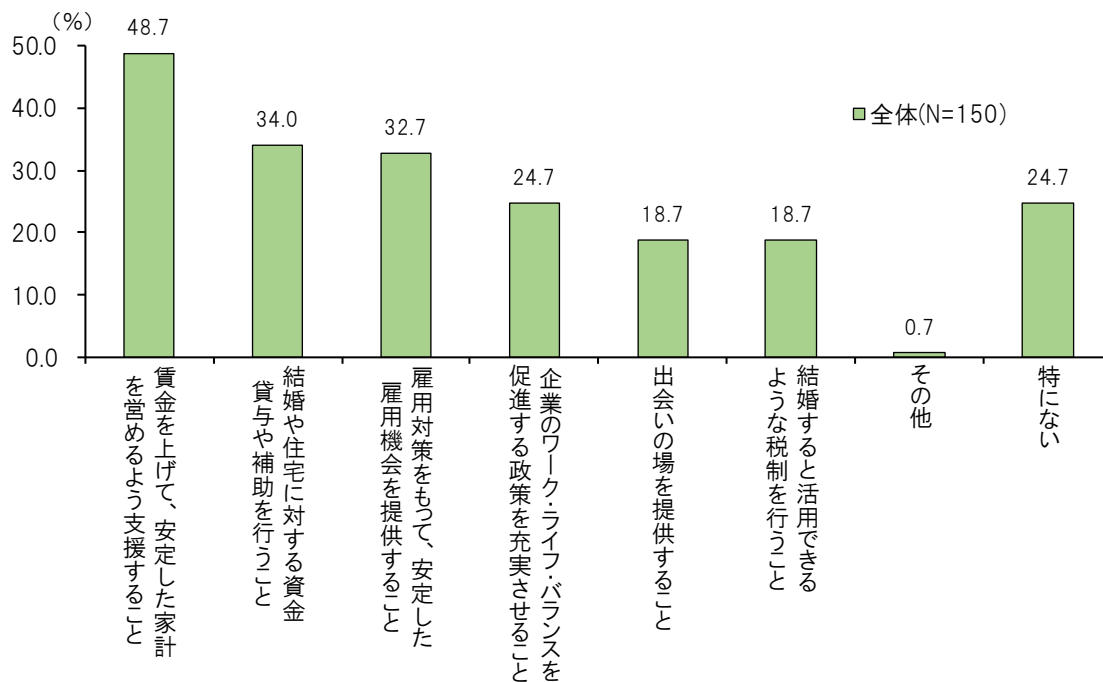
13 お住まいの市町は、子供を生み育てやすい市町だと思いますか。

- 約4割が「子供を生み育てやすい（「そう思う」）」と感じており、約3割が「そう思わない」と回答している。



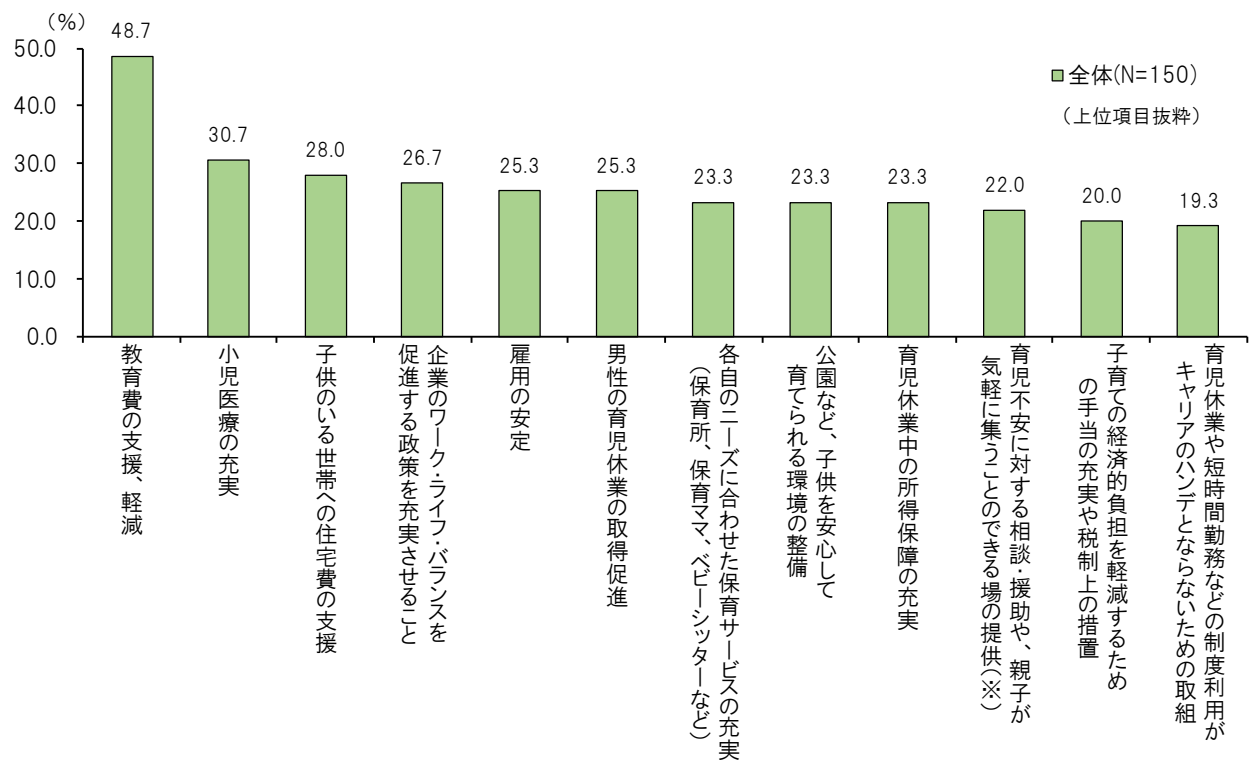
14 結婚（同棲を含む）を希望する人を支援する施策として何が重要だと思いますか。

- 結婚を希望する人への支援として、「賃金を上げて、安定した家計を営めるよう支援すること」を筆頭に、「結婚や住宅に対する資金貸与や補助を行うこと」「安定した雇用機会を提供すること」などが求められている。



15 育児を支援する施策として何が重要だと思いますか。

- 育児を支援する施策として、「教育費の支援、軽減」を筆頭に、「小児医療の充実」「子供のいる世帯への住宅費の支援」「企業のワーク・ライフ・バランスを促進する政策の充実」などが求められている。



※ 子育て家庭等の育児不安に対する相談・援助や、親子が気軽に集うことのできる場の提供

